

NOSA I Q&A CONTENTS Ⅲ (NOSA Iの人材育成)

農業共済新聞より (一部再編集)

Q1. NOSA Iの人材育成はどのように行われておりますか？〈1〉

A1. 【答え】

NOSA Iの人材育成〈1〉 農業・農政や社会を取り巻く環境が大きく変わる時代にあつて、組織運営の将来を担う人材の養成は、NOSA Iにおいても重要な課題となっています。NOSA I団体の人材育成の基本は、自組織が責任を持って実施することとしていますが、NOSA I組織の段階(組合、連合会、NOSA I全国)ごとに役割を分担し、連携をとりながら効果的な人材育成が図れる研修体系を整備しています。研修の内容は、制度の理解を深める事業別の専門講習や経営(マネジメント・事業推進等)・情報処理関連など多岐にわたり、適正な防除薬剤の取り扱い方など農家営農の支援に直接役立つ研修も実施しています。

Q2. NOSA Iの人材育成はどのように行われておりますか？〈2〉

A2. 【答え】

NOSA Iの人材育成〈2〉 NOSA I団体の人材育成を図る研修内容は多岐にわたります。このうち農業経営に直接かかわる研修としては、例えばリスク・マネジメント(RM)支援事業の一環として防除作業を実施するときの、適正な農薬の取り扱い方や防除機材の使用法を学ぶ防除専門技術講習会があります。また、農業試験場などにおいて作物全般にわたる肥培管理技術を習得する研修も実施しており、生産現場で活躍できる職員の養成にも努めています。

Q3. NOSA Iの人材育成はどのように行われておりますか？〈3〉

A3. 【答え】

NOSA Iの人材育成〈3〉 2003年6月に農業災害補償法の一部改正法が成立し、2004年4月1日から施行されることになりました。今回の改正内容は、各NOSA I事業について、これまでになく多岐にわたるものです。NOSA I団体では、農家の皆さんに改正内容を正しく理解していただくため、まずNOSA I職員の説明能力を高める研修や会議などを、あらゆる機会を通じて行っております。特に、NOSA I全国が主催する各NOSA I事業別の専門講習会などの集合研修には、改正制度についての講座を取り入れ、皆さんに分かりやすく改正内容を説明できるNOSA I職員の養成に努めています。

Q4. NOSA Iの人材育成はどのように行われておりますか？〈4〉

A4. 【答え】

NOSA Iの人材育成〈4〉 NOSA I事業の事務には、農作物共済(米、麦)、家畜共済(牛、馬、豚)、果樹共済(りんご、ぶどう)、畑作物共済(大豆、ホップ、蚕繭)、園芸施設共済(パイプハウス、鉄骨ハウス、ガラス室)などの各事業システムが開発され、パソコンによる処理が行われています。人材育成の研修では、これら各事業システムを円滑に運営するため、NOSA Iの組合等()や連合会の担当者の養成に努めています。特に、NOSA I全国が主催する「システム管理者養成研修会」「情報処理指導者

養成研修会」は、毎年度開催しており、受講者は全国から300人以上にも及んでいます。また、NOSA Iでは、事務機械化による蓄積データを加工・分析し、農家の皆さんに役立つ情報の提供にも努めています。

Q5. NOSA I 獣医師等の人材育成はどのように行われておりますか？

A5. 【答え】

NOSA I 獣医師等（人工授精師等を含む）の人材育成 NOSA I 団体では、日ごろ畜産農家の生産現場で診療業務を行っている獣医師のために、毎年講習会を全国で開催しています。この講習会は診療技術の向上と損害防止の推進を目的とするもので、日ごろの体験をもとに研究している診療技術等を個人や研究グループの代表が発表し、意見交換しながら資質の向上を図っています。その研究発表は毎年、全国で合計約百題あまりが報告されます。その中から、優れた発表を選出し、二月下旬に東京・大手町のJ Aホールに全国五百名の獣医師が参集する「家畜診療等技術全国研究集会」で発表・審査がされ、優秀な発表に対して、農林水産大臣賞、農林水産省経営局賞等が授与されます。優れた技術を共有し、診療業務に生かすよう努めています。